

(試 訳)

『王侯の没落』第六卷

— 運命の女神とボッカッチョの対談の場面 —

ジョン・リドゲイト作

轟 義 昭 訳

は し が き

- (1) 私は鹿児島県立短期大学『紀要』第46号(1995)において「『王侯の没落』第三卷 運命の女神と満足貧乏の争いの場面」の訳出を試みました。ここに公表したこの訳出もボッカッチョの『名士列伝』*De Casibus Virorum Illustrium* 写本群のなかで、運命の女神と貧乏神の争いの場面、ボッカッチョと彼の面前に出現した運命の女神の対談の場面に焦点をあててボッカッチョ(原作者)、プルミエフェ(仏訳者)、リドゲイト(翻案者)のテキストの記述と「視覚言語」としての細密画(彩飾画)を比較検討し、原作者の「運命の女神」像が細密画家たちの着想・想像によってどのように描き出されているかを考察しようとする作業の一環として試みたものです。
- (2) 訳出に当たっては、Henry Bergen ed., *Lydgate's Fall of Princes* (1924; rpt. 1967, The Early English Text Society, Extra Series No. 123) のテキストを底本としました。『王侯の没落』は第一巻から第九巻までの 36,365 行で構成された作品ですが、訳出の箇所は第六巻の 1 行目から 518 行目に相当します。
- (3) 184 行目から185 行目 “Whan Estas entrith with violettis soote./ The greuis greene,…”の訳出には特に苦勞しました。というのは、“Estas” という語が Bergen の glossary(語彙集)にも Index to the Text(索引)にも解説されていなかったからです。辛くも *Oxford English Dictionary* を引いた時、†Esteの項目に also late OE (in sense 3) ést masc. (pl. éstas)と記されていたので、その語を delight, pleasureの意味に取って「春の陽気が漂ってにおいすみれや瑞枝が現れ、」と訳しました。しかしながら、Estasが複数形であるとすれば、何故動詞 enterが3人称単数現在形 “entrith” になっているかが疑問として残っています。また271 行目と282 行目に “foolis” という語が用いられていますが、文字通りに「愚か者」と訳せば意味が不鮮明になるので、『新英和辞典』(研究社)の fool の項にある用例 ‘be the fool of fate’ (運命に翻ろうされる)を参照しまして「運命に弄ばれた者」と訳しました。このように訳出において苦心した点は他にも多々見られます。
- (4) 66行目の “debonaire” 「愛想がよい」、 “froward” 「つむじを曲げた」などのように運命の女神の性質・性格を表す形容語句や常套句、 “now...now” “to-day...to-morwe” “sumtyme... sumtyme” などの定型句が頻繁に用いられて運命の女神の二面性が強調される一方で、彼女を「継母」「魔法使い」「人魚」などに譬える運命の伝統的主題に満ちあふれています。中世英文学の数多の作品を繙いても、これ程「運命の寓意の宝庫」と呼べるような箇所はありません。従って、運命の寓意研究を行う研究者には『王侯の没落』第六巻の 1 行目から518 行目は重要な箇所です。
- (5) 最後に、訳出において苦心した甲斐が無く、リドゲイトの韻文の持ち味を十二分に引き出すことができなかつたばかりか、詩全体が醸し出す雰囲気さえも損なっているかもしれません。そのために私の訳出が読者の皆さんの意に満たない点多々見られるかと思えます。忌憚なくご意見・ご批判をお願いする次第です。

『王侯の没落』 第六卷

運命の女神とボッカッチョの対談の場面

- [Here Bochas sitting in his studie alone writeth
a grete processe, how Fortune like a monstrous
ymage hauyng an hundred handys appered vn
to him and spak / and Bochas vn to hir makyng
betwixt hem bothe many grete argumentys &
resouns of Fortunys chaunces.]
- In his studie alone as Bochas stood,
His penne on honde, of sodeyn auenture
To remembre he thouhte it ded hym good,
How **bat** no man may hymself assure 4
In worldli thynges fulli to recure
Grace of Fortune, to make hir to be stable,
Hir dayli chaungis been so variable.
- She braideth euer on the chaunteplure: 8
Now song, now wepyng, now wo, now gladnesse,
Now in merthe, now peynis to eendure,
Now liht, now heuy, now bittir, now suetnesse,
Now in trouble, now free, now in distresse, 12
Shewyng to vs a maner resemblaunce,
How worldli welthe hath heer non assuraunce.
- Whil Bochas pensiff stood sool in his librarie
With cheer oppressid, pale in his visage, 16
Sumdeel abasshed, alone & solitarie,
To hym appered a monstrous ymage,
Partid on tweyne of colour & corage,
Hir riht[e] side ful of somer flours, 20
The tothir oppressid with wyntris stormy shours.
- Bochas astonid, feerful for to abraide
Whan he beheeld the wonderful figure
Of Fortune, thus to hymself he saide: 24
“What may this meene? is this a creature
Or a monstre transffoormyd ageyns nature,
Whos brennyng eyen sparklyng of ther liht
As doon sterris the frosti wyntres niht?” 28
- 一人で書齋にいた時、如何に百本の手を持つ怪物のような運命の女神が己の前に現れて話しかけたか、そして如何に己が彼女のもたらず機運について彼女と大いに議論し、その理を質したかなど、ボッカッチョはここで長々と経緯を記しています。
- ボッカッチョは一人書齋で
ペンを手にしていると、
浮世にて運命の女神からの施しを有り余るほど確保したり、
日々流浪しているのに、
彼女を特定の場所に逗留させることなど、
誰も確信できないことを
物語るのとは為になるとふと思いました。
- 彼女はとにかく泣き上戸のようです。
歌ったかと思えば泣き、悲しんでいるかと思えば喜び、
はしゃいでいるかと思えば苦しみに耐え、
陽気と思えば憂鬱で、苦々しいかと思えば愛らしく、
困っているかと思えば呑気で、そうかと思えば悩んでいます。
如何に世俗の富はこの世でははかないものか、
我々に一種の観念を呈示しています。
- ボッカッチョは一人書齋にいて、物思いにふけり、
沈鬱な面持で青ざめ、
少々めいつていると、
彼の面前に姿と心が二つに分かれた
怪物が出現しました。
彼女の右側は夏の花々に満ち溢れ、
他方の側は冬の嵐に打ちのめされています。
- 運命の女神の不思議な姿を見た時、
ボッカッチョは驚いて、恐ろしさのあまり言葉を出せず、
次のように独り言を言いました。
「これは何を意味するのか。生き物なのか、
それとも自然に逆らって変形した怪物なのか。
霜降る冬の夜空に輝く星々のように
その両目は燃え盛るように煌めいている。」

And of hir cheer[e] ful good heed he took, Hir face seemyng cruel & terrible, And bi disdeyn[e] manacyng of look, Hir her vntressid, hard, sharp & horrible, Froward of shappe, lothsum & odible. An hundred handis she hadde on ech part In sondri wise hir giftes to depart.	32	彼は彼女の顔に注意を払いました。 顔は残酷で恐ろしく、 顔つきは相手を見下して威嚇的で、 ざんばら髪でかたく尖っていて恐ろしく、 悪意に満ちた姿で、むかつくような不快感を与えます。 さまざまな方法で贈り物を分配するために、 左右には百本の手がありました。
Summe off hir handis lefft up men aloffte To hih estat of worldli dignite, Anothir hand griped ful vnsoffte, Which cast another in gret aduersite: Gaff oon richesse, anothir pouerte, Gaff summe also bi report a good name, Noised anothir of sclaudre & diffame.	36 40	人々を高々と持ち上げて 世俗の高貴な地位に上らせる手もあれば、 きつく握り締めて 人々を逆境に陥れる手もありました。 ある者には富を与え、他の者には貧乏 ^{くじ} 籤をひかせ、 ある者には美名を轟かせ、 他の者には恥と悪名を吹き鳴らしました。
Hir habit was of manyfold colours: Wachet bleuh of feyned stedfastnesse, Hir gold alliaied like sonne in wattri shours, Meynt with liht greene for chaung & doubilnesse. A pretens red: dreed meynt with hardynesse; Whiht for clenness, lik soone for to faille; Feynt blak for moornyng, russet for trauaille.	44 48	彼女の衣装はさまざまな色をしていました。 見せかけの不動性を示す薄い空色、 雨にけぶる太陽のようにうすぼけた金色、 変動と二面性を表す薄緑が混ざっています。 苦悩と恐怖をまじえた薄赤色、 沈む太陽のように清浄さを表す白色、 悲しみを表すうすぼけた黒、苦勞を表すあざき色。
Hir colours meynt of wollis mo than oon; Sumwhile eclipsed, sumwhile she shon briht. Dulle as an asse whan men hadde haste to gon, And as a swalwe gerissh of hir fliht, Tween slouh & swiff; now crokid & now vpriht, Now as a crepil lowe coorbid doun, Now a duery and now a champioun.	52 56	彼女の衣装は一筋ならぬ毛糸で織られています。 暗くなっているかと思えば明々と輝きます。 急いで行きたい時、ロバのように鈍く、 時にはゆっくりと時には素早く、燕のように気ままに 飛び回ります。うずくまったかと思えば立ち上がり、 そうかと思えばびっこのように背中を曲げてうずくまり、 小人のようかと思えば戦士のようになります。
Now a coward, durst nat come in pres, And sumwhile hardi as leoun; Now lik Ector, now dreedful Thersites, Now was she Cresus, now Agamenoun, Sardanapallus off condicioun; Now was she mannyssh, now was she femynyne, Now coude she reyne, now koude she falsli shyne.	60	臆病者になり、人前に出ないかと思えば、 ライオンのように勇敢になります。 ヘクトールのかと思えば恐ろしいテルシーテスになり、 クロイソスかと思えばアガメムノーンで、 性格はサルダナパラスになります。 男みたいかと思えば女性らしくなり、 雨のような涙を流すかと思えば偽って照り輝きます。
Now a mermaide angelik off face,	64	顔は天使のようですが、

A tail behynde verray serpentyne, Now debonaire, now froward to do grace, Now as a lamb trettable & benigne, Now lik a wolff of nature to maligne, Now Sirenes to syngre folk a-slepe Til Karibdis drowne hem in the deepe.	68	まさに蛇のような尾鱗を持つ人魚で、 施を与えるに愛想がよいかと思えばつむじを曲げ、 子羊のようにおとなしく優しいかと思えば、 狼のような性格に様変わって悪意を抱き、 そうかと思えばセイレーンのように美しい歌声で人々を眠らせ カリュプデイスの餌食にします。
Thus Iohn Bochas consideryng hir figure, Al hir fetures in ordre he gan beholde, Hir breede, hir heichte, hir shap & hir stature, An hundrid handis & armys ther he tolde: Wheroff astonid, his herte gan to colde; And among alle hir menbris euerichon, He sempte she hadde no feet upon to gon.	72 76	このようにボッカッチョは彼女の容姿を観察し、 順々に彼女の容貌、 肩幅、背丈、姿形をじっくり見て、 百本の手と腕を数えました。 そのことに驚いて、寒気立ちました。 彼女の身体のなかで 足はないように思えました。
And whil that he considered al this thyng, Atween[e] tweyne, as it wer in a traunce, She sodenli toward hym lookyng, He conceyued be hir contenance. — Wer it for ire, wer it for plesaunce, Outher for fauour, outhir for disdeyn, — Bi the maner she wolde sumwhat seyn.	80 84	このように観察していると、 ほんの一瞬ではあるが、 突然彼女と視線が合い、 怒っているのか、喜んでいるのか、 好意を寄せているのか、見下しているのか、 彼女の表情から察しがつきました。 その様子から彼女は何か言いたげでした。
Lookyng a-scoign as she had had disdeyn, "Bochas," quod she, "I knowe al thyn entent, How thou trauailest, besiest the in veyn, In thi studie euer dilligent, Now in the west, now in the orient To serche stories, north & meredien, Of worthi princis that heer-toforn ha been.	88	相手を見下しているかのように横目づかいで 次のように言いました。 「ボッカッチョよ、書齋にこもって 如何に苦勞して無駄な努力を重ね、 古今無双の王侯の物語を あらゆる国から捜し求めているか、 其方の意図は百も承知だ。
Summe duellid vndir the pool Artyk, Be my fauour vpreised to the sterris; Othir vndir the pool Antartik, Which in contrarye from vs so ferr is. Summe encresid & set up bi the werris, Lik as me list ther tryumphes to auauance; Frownyng on othir, I brouht hem to myschaunce.	92 96	北極に留まり、 私の好意を受けて星まで高められた者もいれば、 逆に私から見捨てられて 南極に留まる者もいた。 その時の気分次第で勝利の行方を左右し、 戦争で昇進して権力の座につく者もいれば、 私に渋い顔を向けられて不運に陥る者もいた。
I see the besi remembryng be scriptures Stories of pryncis in eueri maner age,	100	私の好意が王侯の命運を左右するかのよう、 古今東西の彼らの物語を

As my fauour folwed ther auentures, Be humble stile set in pleyn langage, — Nat maad corious be non auantage Of rethoriques, with musis for to stryue, 104 But in pleyn foorme ther deedis to descryue.	飾り気のない文体で せっせと其方が書いているのを, — ミューズの神々と張り合うほどの 修辞学の名まめかしいあやを用いずに, 平易な文体で彼らの偉業を綴っているのを目の当りに見た。
In which processe thou dost gret dilligence, As thei disserue to yiue hem thank or blame: Settest up oon in roiall excellence 108 Withynne myn hous callid the Hous of Fame, — The goldene trumpet with blastis off good name Enhaunceth oon to ful hih[e] parties, Wher Iubiter sit among the heuenli skies. 112	その作業で其方は刻苦勉励し, 受けるに値するままに彼らに賞賛と非難を施し, 名声の館と呼ばれる我が屋敷内で ある者を要人並に扱っている。 — 金のトランペットで美名を轟かせ, 天帝ジュピターの御座す 天にまである者を高めている。
Anothir trumpet, of sownis ful vengable, Which bloweth up at feestis funerall, Nothyng briht[e], but of colour sable, Fer fro my fauour, dedli & mortall, 116 To plonge pryncis from ther estat roiall, Whan I am wroth, to make hem loute lowe, Than of malis I do that trumpet blowe.	葬儀の時に吹かれる 黒色のトランペットで 酷く有害な音色を立てて, 私の好意の及ばない 致命的な境遇へと王侯を陥れている。 私も怒り心頭に発すれば、彼らを転落させようと、 悪意を込めてそのトランペットを吹き鳴らすこともある。
Thou hast writyn & set togidre in gros, 120 Lik ther desert worldli mennys deedis, Nothyng conceled nor vndr[e] couert cloos, Spared [not] ther crownys nor ther purpil weedis, Ther goldene sceptris; but youe to them ther meedis: Crownid oon with laureer hih on his hed vpset, Other with peruynke maad for the gibet.	其方は王侯の武勲と同様に, 世俗の人々の偉業をも 何一つ包み隠さずに綴り合わせ, 王冠も法衣も金の笏も惜しむことなく, 報酬として彼らに授けている。 ある者には月桂樹を冠し, 他の者には絞首刑用のつるにちちそうを冠している。
Thus dyuersli my giftes I departe, Oon acceptid, a-nothir is refusid; 128 Lik hasardours my dees I [do] iupartē, Oon weel foorthrid, anothir is accusid. My play is double, my trust is euer abusid, Thouh oon to-day hath my fauour wonne, 132 To-morwe ageyn I can eclipse his sonne.	そのように私は色々と贈り物を施すが, 与える者もいれば与えない者もいる。 賭博師のように私はサイを振って ある者を援助し, 他の者を裏切る。 私の戯れには裏と表があり, 信託物件はいつも悪用され, 今日私の好意を勝ち得たとしても, 明日には彼の盛りを覆ってしまう。
Cause of my comyng, pleynli to declare Bi good auis, vnto thi presence, Is to shewe my maneres & nat spare, 136	私が其方の前に現れた理由は, 有体に言えば, 是迄の経験によって世に知られた

And my condicions, breeffli in sentence, Preued of old & neue experience, Pleyntli to shewe, me list nat for to rowne, To-day I flatre, to-morwe I can weel frowne. 140	私の流儀と氣質をあからさまに示すためだ。 ひそひそ話は私の性分には合わない。 簡潔に示せば、 今日追従したかと思えば明日には顔をしかめることもある。
This hour I can shewe me merciabile, And sodenli I can be despitous: Now weelwillid, hastili vengable, Now sobre of cheer, now wood & furious. 144 My play vnkouth, my maners merueilous Braid on the wynd; now glad & now I mourne; Lik a wedircok my face ech day I tourne.	今し方慈悲をかけたかと思えば、 突然冷酷になることもある。 好意を寄せたかと思えばすぐに悪意を抱き、 穏やかな表情かと思えば怒り狂った表情になる。 私の戯れは杳として知られず、私の奇異な流儀は 風に似ている。喜んだかと思えば悲しむ。 風見鶏のように私は毎日顔を替えるのだ。
Wheryn Bochas, I telle the yit ageyn, 148 Thou dost folie thi wittis for to plie; All thi labour thou spillest in veyn, Geyn my maneres so fellli to replie, — Bi thi writyng to fynde a remedie, 152 To interupte in thi laste dawes My statutis [and] my custumable lawes.	ボッカッチョよ、その点で一言述べると、 其方は愚かにも知恵を振り絞り、 無駄な労力を費やして 私の流儀に辛辣な意見を述べ、 — 晩年の作品を通して療法を見出し、 私の法則や無常の定則を 侵害しようとしている。
Al the labour off philisophres olde, Trauaile off poetis my maner to deprae, 156 Hath been of yore to seyn lik as thei wolde Ouer my fredam the souereynte to haue. But of my lawes the libertes to saue, Vpon my wheel thei shal hem nat diffende, 160 But whan me list[e] that thei shal dessende.	私の流儀を誤り伝えようと、 古の哲学者たちと詩人たちは骨を折り、 彼らが望むままに所見を述べて 私の自由に制限を加えようとしていた。 しかし己の法則行使の特権を死守しようと、 車輪上の彼らには自己防御の甲斐なく、 私の欲するままに転落させたのだ。
Whi sholde men putte me in blame, To folwe the nature of my double play? With neue buddis doth nat ver the same, 164 Whan premeroles appeere fressh & gay? — To-day thei shewe, to-morwe thei gon away; Somer afftir of flouris hath foisoun, Til lun with zithes aftir mowe hem doun. 168	私は二心の性格に従って戯れているだけなのに、 どうして人々は私を非難するのだろうか。 サクラソウが花茎を出す頃、 若芽をつけて春も様変るではないか。 — 今日咲いたかと思えば、明日萎んでしまう。 夏には花々が咲き乱れるが、 六月には大がまで刈り取られてしまう。
Now is the se calm and blandisshyng; Now ar the wyndis confortable & still; Now is Boreas sturdi in blowyng, Which yong[e] sheep & blomys greueth ille. 172	海は波も静かで 風が心地よい息吹を注いでいるかと思えば、 北風が激しく吹きすさび、 子羊や花々に害を及ぼす。

Whi also shold I nat haue my wille, To shewe my-silf now smothe and aftir trouble, Sith to my kynde it longeth to be double?		どうして私は思いのままに 穏やかと思えば荒れ狂う己の姿を示せないのか。 二心は私の本性なのだ。
No man so ferre is falle in wrechidnesse But that he stant in trust to rise ageyn; Nor non so deepe plungid in distresse, Nor with dispeir nor wanhope ouerleyn, But that ther is sum hope lefft certeyn To yiue hym counforte, seruyng his entente, To be releued whan me list assente.	176	かなり悲惨な境遇に転落した者でも 再び這い上がれると信じる。 ひどく困窮し、 絶望に打ち拉がれた者でも 180 己を慰め、願望を満たすだけの 一抹の光は残されている、 救いの手を差し出す気が私にあればの話だが。
The erthe is clad in motles whiht & rede; Whan Estas entrith with violettis soote, The greuis greene, & in euery meede The bawme fleteth, which doth to hertis boote. August passid, ageyn into the roote Be cours of nature the vertu doth resorte Be reuolucioun to Kynde, I me reporte.	184	春の陽気が漂ってにおいすみれや瑞枝が現れ、 あらゆる牧草地に 人の心を癒す芳香が漂う頃、 大地は一面赤や白の花々で覆われる。 8月が過ぎると、 188 自然の法則に従い、 根に滋養分が再び蓄えられる。
Who sholde thanne debarre me to be double, Sith doubilnesse longeth to me of riht? Now fressh with somer, now with wyntir trouble, Now blynd of look, dirk as the cloudi niht; Now glad of cheer, of herte murie & liht: Thei ar but foolis ageyn my myht that muse Or me atwite, thowh I my poweer vse.	192	それゆえ私が二心であることを誰が妨げられようか。 二面性は私の特権なのだ。 澄み渡った夏の様相かと思えば荒々しい冬の様相を呈し、 盲目で、曇った夜空のように陰気な表情をしたかと思えば、 機嫌のいい顔つきをして心を弾ませる。 世話になりながら、私を非難し、 196 私の力に不満を漏らす輩は本当の愚か者だ。
Seelde or neuer I bide nat in o poynt: Men must at lepis take me as thei fynde; And whan I stonde ferthest out of ioynt To sette folk[es] bakward ferre behynde, Than worldli men with ther eyen blynde Sore compleyne upon my doubilnesse, Calle me thanne the froward fals goddesse.	200	私は決して特定の場所に落ち着くことはない。 発見次第飛び付いて私をつかま 私が甚だ狂って 人々を元の木阿弥にすると、 盲目的な世間の人々は 私の二面性に大いに愚痴をこぼし、 私を邪悪で不実な女神と罵ることがある。
Thus bi your wrytyng & merueilous langage I am disclaundrid of mutabilite, Wheroff be riht I cach gret auantage, Sith dubilnesse no sclandre is to me, Which is a parcel of my liberte,	204	そのように其方の驚きべき言葉づかいで 私の無常は誇られているが、 そのことを私は誇らしく思っている。 二面性が私の面目をつぶすことなどないからだ。 208 二面性は私の特権の一部であり、

To be callid, be title off rihtwisnesse, Off chaungis newe ladi & pryncesse."		当然のことながら称号によって 今様の変化の貴婦人とか王女と呼ばれているからだ。」
Thus whan Fortune hadde said hir will, Parcel declared of hir gouernaunce, Made a stynt & sobirli stood still. Iohn Bochas sat & herd al hir daliaunce, Feerful of cheer[e], pale of contenaunce, In ordre enprentid ech thyng that she saide, Ful demurli thus he dede abraide.	212	このように運命の女神は胸のうちを語り、 己の統治機構の一端を明らかにすると、 語るのを止め、落ち着いた様子でじっとしていました。 ボッカッチョは椅子に腰掛けて彼女の話聞き、 怯えた面持で青ざめ、 彼女が語った事柄を順次思い起こして 次のように厳かに語りました。
He took onto hym vertu & corage Vpon a poynt for to abide stable: "Certis," quod he, "lik to thi visage, Al worldli thyngis be double & chaungable; Yit for my part bi remembraunce notable I shal parfourme, sothli yif I conne, This litiþ book that I ha[ue] begonne.	220 224	その際彼は勇気を奮い 毅然たる態度で臨みました。 「確かに、 ^{あなた} 貴女の顔のように 浮き世の波は変わりやすい。 だが私としては名士の記録を辿りながら 既に着手したこの取るに足らぬ書物を できれば完成させるつもりです。
And lest my labour deie nat nor [a]palle, Of this book the title for to saue, Among myn othir lital werkis alle, With lettres large aboue vpon my graue This bookis name shal in ston be graue, How I, Iohn Bochas, in especiall Of worldli princis writyn haue the fall.	228	それに私の労作が忘れられて色褪せないように、 他の作品のなかでとりわけ この書名を忘却から守るために、 大文字で墓碑銘に この書名を刻み、 如何に私 ^{わたくし} ジョン・ボッカッチョが 王侯の没落を書いたかを記すつもりです。
Off which emprise the cause to descryue, — This was first ground, I wil it nat denye, Teschewe slouthe & vices al my lyue, And specialli the vice of gloteny, Which is norice vnto lecherie: This was cheeff cause whi I vndirtook The compilacioun off this lital book.	232 236	この書物を手掛けた発端を述べると、 — 第一の理由は、 生涯怠惰などの大罪を避けるため、 特に邪淫をはぐくむ 貪食を避けるためでした。 これこそがこの取るに足らぬ書物の文筆に 着手した主な理由でした。
Yit bi thi talkyng, as I vndirstonde, Ech thyng heer of nature is chaungable, Afttir thi sentence, bothe on se & londe; Yit koude I rekne thynges that be stable: As vertuous [lyf] abidyng vnmutable, Set hool to Godward of herte, will & thouht,	240 244	貴女の話によると、 陸であれ海であれ、 この世の万物は変わりやすいとのことですが、 堅忍不拔のものも有り得ます。 神に全身全霊を捧げて 修業に励む者は、

Maugre thi poweer, & ne chaungith nouht.		貴女の力を物ともせず不動です。
Thou maist eek callyn [vn]to remembraunce		神の恵みによって不撓不屈の精神を培った人々を
Thynges maad stable bi grace which is dyuyne, —		同様に思い起こせるならば, —
Hastow nat herd[e] the perseueraunce	248	命の際までキリスト教に
Of hooli martirs, which list nat to declyne		身を尽くした殉教者たちの
Fro Cristis feith til thei dide fyne?		忍耐を聞いたことはないですか。
Thi wheel in hem hadde non interesse,		貴女の車輪は彼らには何ら影響力がなく,
To make hem varie fro ther stabilnesse.	252	彼らの不動の信念を揺るがせませんでした。
A man that is enarmed in vertu -		美徳を兼ね備えて
Ageyn thi myht to make resistance,		貴女の力に抵抗し,
And set his trust be grace in Crist Iesu,		イエス=キリストを信仰し,
And hath al hool his hertli aduertence	256	正義, 力, 思慮分別,
On rihtwisnesse, force & on prudence,		それに中庸と呼ばれる姉妹に
With ther suster callid attemperance,		留意する者は
Hath a saufconduit ageyn thi variaunce!		貴女の変動から身を守れますよ!
The [i] sette no stoor be thi double wheele,	260	そのような人は三人の他の貴婦人に後押しされて
With supportacioun of other ladies thre;		二心ある貴女の手輪を無視し,
Ther trust stant nat in mail[e], plate or stel,		鎖かたびらや甲冑などではなくて,
But in thes vertues: feith, hope & charite,		対神徳と呼ばれる
Callid vertues theologice,	264	信頼, 希望, 慈愛の三徳を心の拠所としています。
Which with foure afforn heer specefied,		この貴婦人たちは前述の四人の貴婦人と共に
Thi wheel & the han vtirli defied.		貴女と貴女の手輪に完全に挑んできました。
Yiff I with wyngis myhte fleen to heuene,		仮に私に翼があり天翔ることができれば,
Ther sholde I see thou hast nothyng to doone	268	貴女が太陽, 火星, 水星, 月などの
With Iubiter not the planetis seuene,		7つの惑星とも天帝ジュピターとも
With Phebus, Mars, Mercurie nor the moone.		一切関係がないことを体験するでしょう。
But woorldli foolis, erly, late and soone,		しかし昔も今も運命に弄ばれる
Such as be blent & dirkid with leudnesse,	272	無知で盲目的な人々は,
Bi fals oppynyoun calle the a goddessse.		誤った判断から貴女を女神さまと呼んでいます。
Giftes of grace nor giffes of nature,		神からの恵みも自然の恵みも
Almessede[de] doon with humylite,		称賛に値する謙遜な行為も
Loue and compassioun, been ferr out of thi cure, —		愛も哀れみも貴女の管轄からほど遠く, —
Semlynesse, strengthe, bounte nor beute		品位も勇気も博愛も美も然りで,
Vertuousli vsid in ther degre, —		程度に応じて有効に用いられ, —
Geyn non of these thi poweer may nat stretche;		これらには貴女の力は及びません。
For who is vertuous lite of the doth rechche.	280	徳ある者は殆ど貴女に関心を寄せないからです。

Off thi condicions to sette a-nother preeff, Which foolis vsen in ther aduersite For excusacioun, as sumtyme seith a theeff, Whan he is hangid: 'it was his destyne' — 284 Atwitith Fortune his iniquite, As thouh she hadde domynacioun To reule man bi will ageyn resoun.	泥棒が絞首刑になる時に、 「これが定めだ」と時々漏らすように、 運命に弄ばれた者が弁解のために引き合いに出す 貴女の特質について一言述べると、 — 理に反し思いのままに人間を支配する 権限が運命の女神にあるかのように、 彼女に己の不法行為を擦り付けています。
For which I, Bochas, in parti desolat 288 To determyne such heuenli hid secrees, To them that been dyuynes of estat I remitte such vnkouth pryuites; And with poetis that been off low degrees 292 I eschewe to clymbe to hih aloffte, List for presumpcioun I shold nat fall[e] softe.	そのような天の神秘を語ることなど 私ポッカッチョにはできそうにないので、 そのような杳としない事柄は 神学者に任せることにして、 身分の低い詩人たちと同様に、 高い地位に昇ることは避けます。 憂き目にあわないようにするためです。
But yif I had hid in my corage Such mysteries of dyuyn prouidence, 296 Withoute envie I wolde in pleyn langage Vltre hem be writyng with humble reuerence, — Predestynacioun nouter prescience Nat apperteene, Fortune, vnto the; 300 And for my part I wil excuse me,	しかしそのような摂理の神秘が 私の心の奥に潜んでいたならば、 素直な気持ちで平易な言葉を用いて そのことを書物に記したことでしょう、 — 運命の女神さん、 予定も予見も貴女とは一切関係ありません。 そして一身上の弁明をすれば、
And proceede lik as I vndirttook, Aftir that I haue told my mateer, Of Fall of Princis for to write a book. 304 But yit afforn[e], yif thou woldest heere, I desire of hool hert & enteer To haue a copee of princis namys all, Which fro thi wheel[e] thou hast maad to fall. 308	これまで通りに、 王侯の没落に関する書物を 書き続けるつもりです。 しかし耳を貸す気があればの話ですが、 これまでに貴女が車輪から転落させた 王侯の目録を手に入れることが 私のたつての願いなのです。
Thi secre bosum is ful of stories Of sondry princis, how thei ther liff haue lad, Of ther triumphes & ther victories, Which olde poetis & philisophres sad 312 In meetre & prose compiled han & rad, Sunge ther laudis, ther fatis eek reserued Bi remembrance, as thei haue disserued.	貴女の胸の内には王侯の功績や戦勝、 彼らがどのような人生を送ったかなど、 彼らの様々な物語で満ち溢れています。 そのことを古の詩人たちや真面目な哲学者たちは 韻文と散文の形式で綴ったり朗読したり、 彼らの誉れを唱えて、値するがままに 彼らの命運を記憶に留めてきました。
Of which I haue put summe in memorie, 316	数名については私の記憶に留まり、

Theron sette my studie & my labour,		思案と労力を注いで
So as I coude, to ther encres of golrie,		できる限り彼らの榮譽を高めようと努めました,
Thouh of langage I hadde but smal fauour,		カリオペーの後押しがないので,
Cause Caliope dede me no socour,	320	言葉のあやが欠けてしまいました。
For which thou hast duryng al this while		それゆえ貴女はこの間ずっと
Rebuked me of my rud[e] stile.		私の文体のまずさを非難なさいました。
Men wolde acounte it wer a gret dulnesse,		私の文体はとても冗漫だと人々は思うことでしょう。
But yiff langage conveied be bi prudence,	324	確かに高尚な文体で彩られ,
Out declared bi sobre auysynesse,		修辞学の第一人者である
Vndir support fauoured be diffenē		キケロを模範として
Of Tullius, cheef prince of elloquence, —		謹厳実直に述べられていれば, —
Sholde mor proffite, shortli to conclude,	328	手短かに結論を言えば, 平易な言葉で綴られた
Than my stile, spoke in termys rude.		私の文体よりも一段と実りが多いはずで。
Yit ofte tyme it hath be felt & seyn,		だが耕地において無用の外皮の中で
Vnder huskes growyng on lond arable,		良質の穀物が成長していたのを見出されたり,
Hath be founde & tried out good greyn;	332	揺れ動く野生の群衆に隠れていた
Vndir rude leuys, shakyng & vnstable,		健康に良い美味しい果実が摘まれたなどと
Pullid fair frut, holsum & delectable.		度々報告されています。
And semblably, wher rethorik hath failed,		同様に美辞麗句が欠けていても,
In blunt termys good counseil hath auailed,	336	味気ない言葉での助言が役に立つこともあります。
Philosophres of the goldene ages		古典時代の哲学者たちや
And poetes that fond out fressh ditees,		美しい歌を詠んだ詩人たちは,
As kyng Amphiou n with his fair langages		アムピオン王が魅力的な言葉を用い,
And with his harpyng made folk of louh degrees,	340	豎琴を弾いて庶民階級の人々を
As laborers, tenhabite first cites; —		労働者としてまず都に住ませたように, —
And so bi musik and philosophie		哲学と音楽によって
Gan first of comouns noble policie.		平民たちを見事に引き付けました。
The cheeff of musik is mellodie & accord;	344	音楽の真髄は旋律と和音です。
Welle of philosophie sprang out of prudence,		哲学の源は思慮分別に端を発し,
Bi which too menys gan vnite & concord		それを拠所として多くの人々は一致団結し,
With politik vertu to haue ther assistence:		愛国精神をもって互いに助け合い,
Wise men to regne, subiectis do reuerence.	348	賢人の支配に平民は敬意を表します。
And bi this ground, in stories men may see,		このような理由で, 種々の物語に見られるように,
Wer bilt the wallis of Thebes the cite.		テーベの城壁が造られました。
Accord in musik causith the mellodie;		音楽において和音は旋律を生み出します。
Wher is discord, ther is dyuersite,	352	不協和音が生じるところに分裂が起こり,

And wher is pes is prudent policie In ech kyngdam and euery gret contre. Striff first inducid bi thi duplicite; For which thou maist, as clerkis the descryues, 356 Be callid ladi of contekis & of stryues.	それぞれの王国や国家において 治安が良いところには聡明な政治が存在します。 争いはまず貴女の二面性によってもたらされ、 そのために学者たちが評しているように、 貴女は闘争と争いの貴婦人と呼ばれるかもしれません。
First wer founde out hatful dyuysious Be thi contreued fals mutabilites, — Slaughtre, debat, froward discencious 360 In regiouns, prounces and cites, Desolacioun off townis & contrees, Wheroff men hadde first experience Bi thi chaungable geri violence. 364	貴女が目論んだ不実な変化によって まず憎悪に満ちた分裂が生じました — 地方や都では 殺害、争い、不正による悶着、 町や田舎では荒廃。 貴女が目まぐるしく変わる猛攻によって これらを人々は体験しました。
Thus bi thoppynyoun of thi wheel most double, As ferr be nature as it was possible, Querthwertli thou brouhtest men in trouble, Madest ech to other froward & odible 368 Bi thi treynys vnkouth & terrible, Lik a corsour makth coltis that be wilde With spore & whippe to be tame & mylde,	最も陰険な貴女は車輪を回転させて、 できる限り己とは程遠い 悲惨な境遇に人々を陥れ、 知られざる恐ろしい罠に掛けて 互いに反目させ憎しみあわせています。 まるで貴女は荒馬を拍車と鞭で 慣らしておとなしくさせる調教師のように、
Thus bi the tempest off thyn aduersites, 372 To make men mor tame of ther corage. In [ther] discordes tween kyngdames & cites, Afftir the sharpe[nesse] of thi cruel rage Onli bi mene of speche & fair langage, 376 Folk be thi fraude fro grace ferr exilid, Wer be fair speche to vnite reconcilid.	逆境の嵐によって 人々の心を一層柔順にさせました。 都や王国のなかに生じた不協和音については、 貴女の激しい猛攻が収まると、 貴女の欺瞞で慈悲の心を無くした人々も 穏和な話し合いによって 和解して元の鞘へ収まりました。
Peeplis of Grece, of Roome & off Cartage, Next in Itaille, with many a regeoun, 380 Wer inducid bi swetnesse of langage To haue togidre ther conuersacioun, To beelde castellis & many roial toun. What caused this? — to telle in breeff the foorme, But eloquence rud peeplis to reffoorme.	ギリシャ、ローマ、カルタゴの人々は、 近隣のイタリアにおける多くの地方と 甘い言葉に誘 ^{いざな} われて 共同体を組み、 城や輝かしい町を建設しました。 この要因は何か？ — 簡潔に述べると、 教養のない人々を手懐 ^{とく} けるには雄弁しかありません。
Affor tyme thei wer but bestiall, Till thei to resoun be lawes wer constreynd, Vndir discrecioun bi statutis naturall 388	嘗て彼らには理知のかけらも見当たらなかつたけれど、 法律に強 ^{おぼ} えられて道理を弁 ^{わきま} えるようになり、 自然法や思慮分別によって

Fro wilful lustis be prudence wer restreyned. Bassent maad oon, & togidre [en]cheynynd In goldene cheynys of pes and vnite; Thus gan the beeldyng of eueri gret cite.	392	欲望を抑えるようになりました。 彼らは平和と調和という黄金の鎖で結びつき、 一致団結しました。 このようにしてすべての都の建設が始まりました。
But whan thou medlist to haue an interesse, Thei that wer oon to brynge hem at discord, To interupte with thi doubilnesse Cites, regiouns, that wer of oon accord, — Lik as this book can ber [me] weel record, Fro the tyme that thou first began Thi mutabilite hath stroied many a man.	396	しかし貴女はちよっかいを出して、 団結していた彼らのなかに不協和音を持ち込んだり、 一致していた都や地方を貴女の二面性によって 分裂しようとてぐすねを引いています。 — この書物が示しているように、 貴女が関わったその時から 大勢の人は貴女の変動の渦に巻き込まれました。
Thou causest men to been obstynat In ther corages & incorrigible, Wilful, froward, causeles at debat, Ech to other constrarious & odible, Them to refourme almost impossible, — Til fair[e] speche, voidyng dyuision, — Pes reconcilid tween many a regeoun.	400 404	貴女は人々を頑固な心の持ち主にし、 救い難くし、 強情にし、増長させ、理由なく争わせ、 互いに反目させて憎しみ合わせ、 和睦の成立を殆ど不可能にします。 — 遂に穏やかな話し合いで分裂を回避し、 多くの国々は平和を取り戻しました。
For ther is non so furious outrage, Nor no mateer so ferr out of the weie, But that be mene of gracious language And faire speche may a man conveie To al resoun meekli for to obeie, — Bi an exauple which I reherse shall Weel to purpos and is historiall.	408 412	というのは、途方も無い不法行為においても、 正道からはずれた事柄においても、 美しい言葉や穏和な話し合いは あらゆる道理を順守するように 人を諭すことができるからです。 — 史実に基づき、目的に叶う一例を挙げて そのことを論証しましょう。
The hardi kniht, [the] cruel Achilles, Whan hatful ire assailed his corage, Ther was no mene with hym to trete of pes, To stille the tempest of his doolful rage, Sauf onli this, which dede his ire asswage Bi attempraunce tobeien to resoun, When of an harpe he herde the sueete soun.	416 420	勇敢で獐猛な戦士アキレスの心に 憎悪に満ちた怒りが込み上げてきた時、 心の平静を取り戻させ、 悲しみと怒りの嵐を静める手立ては、 これとって何もありませんでした。 ただ彼がハーブの快い音色を聞いた時、 自制心を取り戻し怒りは和らぎました。
Which instrument bi his gret suet[e]nesse Put al rancour out of his remembrance, Wrestid hym ageyn to al gladnesse, From hym auoidyng al rancour & greuaunce.	424	その楽器は甘美な音色で すべての憎しみを彼の心から一掃し、 彼から憎しみや怒りを追い払い、 悦に入らせました。

Semblabli, faire speche and daliaunce Set men in reste in rewmys heer & yonder Bi good langage that wer ferr assonder."		同様に穏やかな話し合いや美しい言葉は ここかしこの王国において 断絶した人々の緊張を緩和します。」
With these woordes Bochas wex debonaire, 428 Toward Fortune as he cast his look, Withdrouh his rancour & gan speke faire Touchyng his labour which he upon hym took, Besechyng hir for to forthre his book, 432 That his name, which was lital knowe, Be good report myhte be ferther blowe.		このように語るとポッカッチョは愛想よくなり、 運命の女神に視線を向けて、 悪意を押し殺し、 作業中の労作に関して丁寧に話し、 己の書物に好意を示して 殆ど知られていない己の名が 広く世に轟くように彼女に懇願しました。
That his fame myhte ferther spreede, Which stood as yit shroudid in dirknesse, 436 Bi hir fauour his name forth to leede, His book to foorthre doon his bysynesse Bi good report to yiue it a brihtnesse, With laureat stremys shad foorth to peeplis all, 440 Bi foryetilnesse that it neuer appall.		今まで日の目を見ることのなかった 己の名が広く世間に知れ渡り、 貴女の御尽力で己の名が記憶に留まり、 またこの書物がはかどるように気を配り、 人々に注がれる黄金の輝きで この書物に栄光を与え、 忘却の淵に沈まないように懇願しました。
This was the bille which that Iohn Bochas Made vnto Fortune with ful humble stile. Whan Fortune hadde conceyuyd al his caas, 444 Sobirli stood and gan [to] stynte a while, And glad of cheer[e] aftir she gan smyle On myn auctour, & with a fressh visage In sentence spak to hym this langage: 448		以上が運命の女神に対する ジョン・ポッカッチョの慎しい願いでした。 彼女は彼の用件を理解すると、 暫くじっとしてためらい、 その後我が著者に得意げに笑みを浮かべ、 生き生きとした顔つきをして 次のように語りました。
[Hic loquitur Fortuna.]		[次のように運命の女神は語る]
"Soothli," quod she, "I see thi besynesse, Of mortal men, how corious that thei bee, How thei studie bi gret ausynesse Off my secretes for to been preue, 452 To knowe the conceitis hid withynne me And my counsailles, ye men doon al your peyne, Al-be nat lhtly ye may therto atteyne.		「漸く其方たち人間どものねらいが読めた。 如何に好奇の目を向け、 如何に知恵を絞って吟味し、 私の密かな営みを嗅ぎ出そうとしていることか。 また私の心に潜む考えや助言を知ろうと 其方たち人間は苦労を重ねていることか。 そこに至ることなど容易くできないというのに!
In this mateer your witt doth neuer feynte, 456 Ymagynyng liknessis in your mynde, Lik your conceitis ye forge me & peynte,		この件に関しては其方らの思考は決して衰えず、 心のなかで私の姿を想像し、 考えに合うように私を創り上げて描いている。

Sumtyme a woman with wenges set behynde, And portreye me with eien that be blynde. Cause off al this, breeffli to expresse, Is your owne coueitous blyndnesse!	460	時には背中に翼のある女性に, 時には私を盲人のように描いている。 簡潔に述べると、この要因は 人間の盲目的な貪欲によるものだ!
Your appetitis most straunge & most dyuers, And euir ful of chaung & doubilnesse, Froward also, malicious & peruers, Be hasti clymyng to worshepis & richesse, Always void of trouthe & stabilnesse, Most presumptuous, serche out in al degrees, Falsli tatteyne to worldli dignites.	464 468	人間の欲求は極めて奇妙で多種多様であり, 心変わりが激しく, 悪意に満ちて強情であり, 富と名誉に執着し, 何時も真実味が乏しく、安定性を欠き, かなり僭越で、色々と嗅ぎ付けては, 不当に世俗的権威を得ようとしている。
Bochas, Bochas, I parceyue eueri thyng And knowe ful weel the grete difference Hid in thi-silff of woordes & thynkyng, Atween hem bothe the disconvenience. Hastow nat write many gret sentence In thi book to sclaudre with my name, Off hool entent my maneres to diffame?	472 476	ボッカッチョよ、ボッカッチョよ、 私はすべてのことを理解し、 其方の心に潜む思いと言葉の大きなずれ、 その矛盾を十分に認識した。 其方はこの書物のなかで私の名を誹謗し、 故意に私の慣習を侮辱するような 多くの悪口を並べ立てなかったか?
Thou callest me stepmooder most vnkynde, And sumtyme a fals enchaunteresse, A mermaide with a tail behynde, Off scorn sumwhile me namyng a goddessse, Sumtyme a wich, sumtyme a sorceresse, Fyndere off moordre & of deceitis alle; Thus of malis mortel men me calle!	480	其方は私を最も薄情な継母、 時には不実な魔法使いとか、 尾鰭を持つ人魚と罵り、 軽蔑の眼差しで私を女神様と煽てたかと思えば、 時には魔女、時には魔術師、 殺人とあらゆる欺瞞の扇動者などと悪態をつく。 人間どもも悪意を込めて私に悪口を吐く始末だ!
Al this is doon in despiht of mee; Bi accusacioun in many sondri wise Ye offte appeche my mutabilite, Namli whan I your requestis do despise, For tacomplisshe your gredi couetise: Whan ye faille ye leyn on me the wite, Off your aduersites me falsli tatwite.	484 488	このような行為は私を蔑んでのことである。 特に貪欲さを満たそうとする 願いを私が拒んだ時、 様々な事柄で難癖を付けて 其方らは私の無常を度々非難する。 願いが叶わないと、私に非難を浴びせ、 自らの不幸を不当にも私に擦り付けてしまう。
And thou of purpos for tesclaudre me Hast writt vngoodli a contrarious fable, How I wrestled with Glad Pouerte, To whos parti thou wer fauourable,	492	特に其方は私を誹謗する目的で 私にとって事実無根の寓話、 如何に私が満足貧乏と争ったかを書き、 私に悪意を抱いて相手に荷担し、

Settest me abak, geyn me thou wer vengable, —		私を排斥しようとした。 —
Now of newe requerist my fauour	496	それなのに己を助け己の労作を支援するように
The for to helpe & foorthre thi labour!		私の好意にすぎるとは!
As-scauns I am off maneres most chaungable,		私は極めて変わり易い性格で,
Off condicions verray femynyne;		とても女らしいと言わんばかりに,
Now heer, now ther, as the wynd vnstable,	500	ここかと思えばかしこにいて, 風のように一様でなく,
Be thi descripcioun and be thi doctryne,		其方の記述と見解によれば,
To eueri chaung[e] reedi to enclyne,		あらゆる変化に首を突っ込みたがり,
As women be & maidnes tendre of age,		本質的に心の色が様々な
Which of nature be dyuers of corage.	504	女性または幼 ^い 気な少女のようである。
But for to forthre in parti thyn entent,		しかしこの物語が続くように,
That of thi book the processe may proceede,		少しでも其方の意向を汲み,
Be my fauour to the accomplishment		私のおかげで書物が完成するように
I am weelwillid to helpe the in thi neede.	508	必要に応じて手を貸そう。
Lik thi desir the bettir thou shalt speede,		私が優しい顔を向け,
Whan I am toward with a benigne face		好意を寄せて其方の仕事を進める気になれば,
To speede thy iourne bi support of my grace,		望み通りに事がうまく運ぶであろう。
That thi name and also thi surname,	512	そうなれば其方の姓名は
With poetis & notable old auctours,		古の著名な詩人や作家たちと共に,
May be registrid in the Hous off Fame		名声の館に銘記されるであろう。
Bi supportacioun of my sodeyn fauours,		私が出し抜けに好意を寄せたおかげであり,
Bi assistance also of my socours	516	私が援助の手を差し伸べたおかげである。
This werk texpleite the laurer for to wyne,		まずこの書物が完成して賞賛を博するように,
At Saturninus I will that thou begynne.		サトゥルニヌスから始めて貰おう。

(1996年5月1日受理)